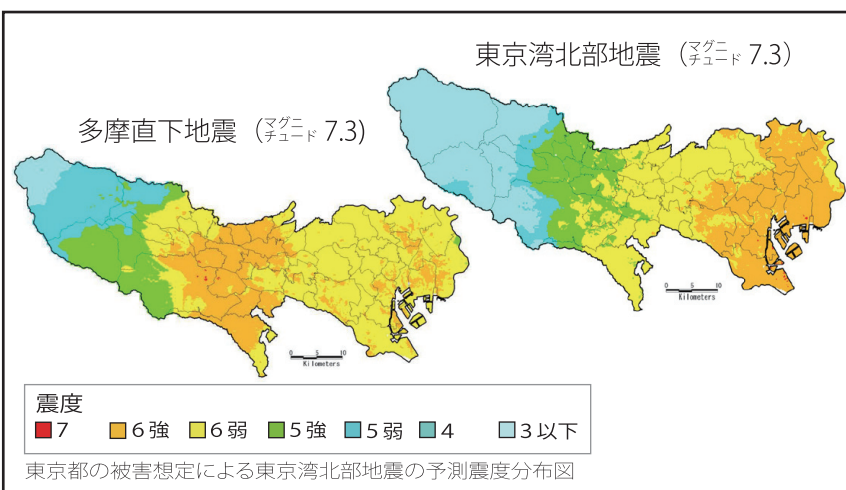


代表質問に立つ、たぞえ民夫議員(6月12日、都議会本会議)



最悪の被害に備えた 防災計画に たぞえ都議が 追及



第2回定例会の大きな焦点の一つは、防災問題でした。東京都は4月に首都直下地震などの新しい被害想定を発表しましたが、きわめて不十分なものです。共産党都議団は、問題点を告発するとともに、防災対策の抜本強化を提案しました。

被害を過小評価

代表質問に立ったたぞえ民夫都議は、「強い地震動による被害の想定が低くおさえられ、対象も狭いものになっている」と指摘し、想定を練り直しと防災対策の強化を求めました。

その一つが火災の想定です。前回の被害想定では、大正関東大震災が毎秒15メートルという強風下で深刻な火災被害を引き起こしたこと、最大風速は、毎秒15メートルに設定して火災被害を想定していました。ところが、今回は8メートルに下げられています。たぞえ都議は、「延焼防止対策

都の想定・対策きわめて不十分

での重大な弱点をうむ結果につながる」と批判しました。

また、前回は想定した車両火災、鉄道の脱線事故についても、今回は具体的な想定はおこなっていません。

背景に知事の想定ゆがめる発言

国の中央防災会議は、「災害を完璧に予想することはできなくても、災害への対応に想定外はあつてはならない。楽観的な想定ではなく、悲観的な想定を行うべき」(中間報告)としています。にもかかわらず、東京都の想定は甘いのか。背景に、石原都知事が「財政にも限りがあるから(被害が)たいへんだという形にあまりしないほうがいい」(3月の記者会見)と発言した問題があります。

あるから(被害が)たいへんだという形にあまりしないほうがいい(3月の記者会見)と発言した問題があります。たぞえ議員は問題点をきびしく批判しました。



防潮扉を視察する(右から)吉田、大島、かち各都議＝5月18日、大田区

難燃化対策、堤防の耐震化など 共産党都議団が提案

共産党都議団は、火災被害を防ぐため、燃えにくい住宅にする際の都の助成を強化すること、また、墨田区が始めようとしている住宅の防火性能と耐震性をセットで向上させ、区が財政的にもバックアップする政策に学ぶことを求めました。また、河川堤防について、大正関東大震災級の地震がきたときに耐震性に問題があることを指摘。震度7に対応する新たな緊急耐震化計画をつくることを求めました。

共産党が求めてきた都営住宅 100%耐震化が実現へ

共産党都議団は、都営住宅の耐震化が、他県の公営住宅や都内の一般の住宅よりも遅れていることを指摘し、期日を明確にして一刻も早く100%の耐震化を達成するよう、くり返し求めてきました。

第2回定例会では、自民党、公明党も100%の耐震化を求めるにいたり、都は2020年度の達成に向けて整備プログラムを改定すると表明しました。共産党都議団は期限をさらに前倒しするよう都に求めています。

ご意見・ご感想をおよせください 電話03(5320)7270,FAX03(5388)1790



清水ひで子
八王子市選出



大島よしえ
足立区選出



古館 和憲
板橋区選出



あぜ上三和子
江東区選出



吉田 信夫
杉並区選出



たぞえ民夫
世田谷区選出



かち佳代子
大田区選出



大山とも子
新宿区選出